

令和7年度版

かながわの学びの充実・改善のために

令和7年度 全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料

「頑張ったね」の、種をまこう



全国学力・学習状況調査はその名の通り、子どもたちの「学力」の定着度合とともに、どのような「学習状況」で日々取り組んでいるのかを確かめることができる総合的な調査です。この調査結果からは、子どもたちの学びに対する思いや願い、つまり、子どもたちの「こえ」を読み取ることができます。先生方はその「メッセージ」を基にして、子どもたちとどのように学びを紡いでいくのかを考えることが大切です。

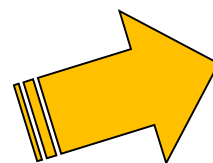
子どもたち一人ひとりの学びのさらなる充実を目指し、学校全体でたくさんの「頑張ったね」の、種をまきましょう。

令和7年10月
神奈川県教育委員会

小さな一歩から、大きな成果へ。 かながわの子どもたちの未来を拓く！ ～学びの充実・改善のためのRPDCAサイクル～

Check !

- すべての学年で、全国学力・学習状況調査と同じ質問項目の調査を年間複数回行い、変容を比較・分析している
- 自身の授業改善のために、他の先生の授業を見たり、自分の授業を公開して、見てもらったりしている
- 改善が必要だった指導事項を再度取り上げて指導している
- 地域や家庭に児童・生徒のよい点や、課題解決に向けた手立てなどを発信・共有している



Action 改善

- 目標の達成状況に基づく新たな目標の設定
- 評価結果に基づく改善策の検討



重点1



子どもたちの
学びに対する
意欲の向上

重点3



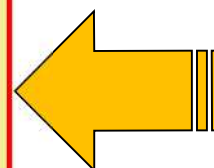
授業改善の推進

Check !

- 児童・生徒が学びを深められるような問いかけや、認め励ます声かけ、評価を行っている
- 児童・生徒のよさや可能性を認め、一人ひとりにフィードバックしている
- 児童・生徒一人ひとりが、授業の中で、自分の考えを表出できる（異なる考えを認め合える）雰囲気がある
- 生活と結びつくような学習課題を設定し、十分な時間をとっている

Check 振り返り・評価

- 目標の達成に向けた実践効果の客観的な把握
- 目標の達成状況に対する自己評価の実施



いくつ check がつきますか？

子どもたちの学びの充実・改善のためには、下の RPDCA サイクルを回していくことが大切です。自分自身を見つめ直し、当てはまるものには✓をつけましょう。次のページからは、全県の傾向を踏まえて設定した重点事項ごとにポイントをまとめています。

※次ページからの表やグラフで示されている数値は、神奈川県内の公立小・中学校の結果です。



Check !

Research 状況把握

- 全国学力・学習状況調査の結果分析
- 自校の児童・生徒の課題 資源の把握

- 全国学力・学習状況調査の問題を解いた
- 自校の児童・生徒の学習面における「強み」と「課題」を端的に説明（言語化）できる
- 自校の児童・生徒の誤答を分析している
- 国が出した「報告書」を読んだ
- 地域の人的・物的資源を把握している

Plan 計画

- 具体的に検証可能な目標の設定
- 目標と計画の作成・共有

Check !

重点2 
自分の考えを
文章等で表現する
力の向上

重点4

地域・家庭と学校が
連携・協働した
教育活動の推進

- 指導事項に即した学習内容となるよう、単元や題材ごとの指導計画・評価計画を立てている
- 学習を通して実現を目指す児童・生徒の姿が明確になっている
- 児童・生徒のつまづきを予測し、手立てを複数考えている
- 学習内容に関する系統性や既習事項を理解している

DO 実践

- 計画に沿った学習活動の展開
- 研究授業の実施

Check !

- 児童・生徒が見通しをもって学習できるよう工夫している
- 児童・生徒が興味・関心をもって学習を進められるよう工夫している
- 意図的・計画的に他者と交流し、自分の考えを検討する場面を設けている
- 児童・生徒一人ひとりをよく観察し、適切なタイミングで支援や評価を行っている



1 子どもたちの学びに対する意欲の向上

◆児童・生徒質問調査に着目すると…

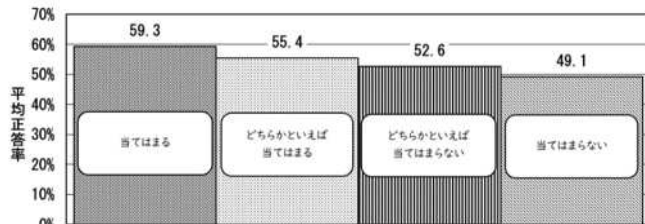
肯定的な回答をした児童・生徒の割合（全県）

質問 番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(45)	国語(45)、算数・数学(53)、理科(61)の勉強は好きですか。 	58.5	58.6			
(53)		58.7	55.4			
(61)		79.5	61.0			

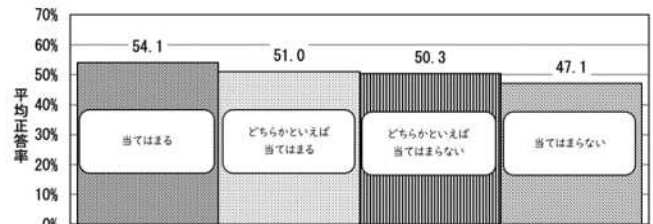
まずはあなたの学校の
数値を入れてみましょう。

児童・生徒質問調査(45)(53)(61)と中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

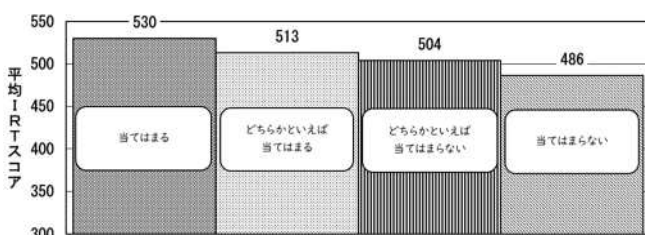
【中学校 国語】



【中学校 数学】



【中学校 理科】



➡教科の学習が好きと感じている生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

※小学校でも、各教科の「勉強が好き」と回答した児童は、各教科の平均正答率が高い傾向が見られました。

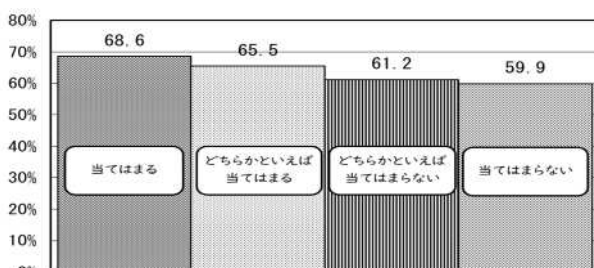
児童・生徒が、教科の学習が「好き」と感じるきっかけは何でしょうか。
授業や日常生活での姿勢や表情をよく観察することがヒントになるかもしれません。



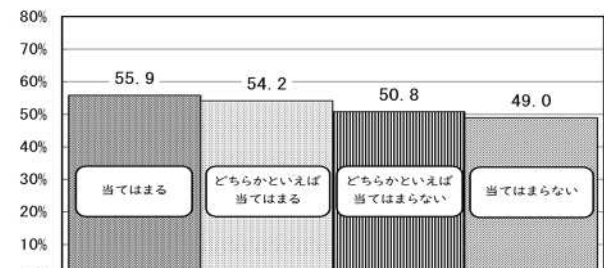
質問 番号	質問	小学校	中学校	自校		
				4月	月	月
(5)	自分には、よいところがあると思いますか。	87.1	85.7			
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	91.8	92.2			

児童・生徒質問調査(6)と小・中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

【小学校 国語】



【中学校 国語】

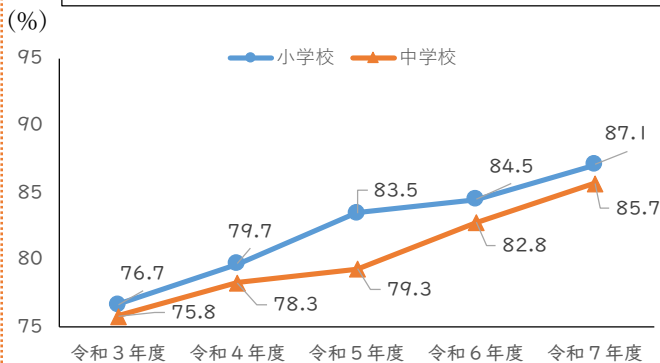


➡「自分には、よいところがある」と感じたり、「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じたりしている子どもたちは、国語の平均正答率が高い傾向が見られます。

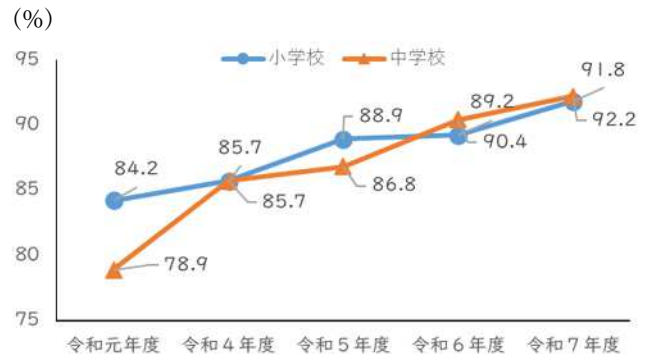
※小・中学校の算数・数学、理科の調査においても、同様の傾向が見られました。

◆児童・生徒質問調査(5)(6)の経年変化に着目すると…

(5)自分には、よいところがあると思いますか。



(6)先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



➡「自分にはよいところがある」と自覚できている児童・生徒の割合が年々増え、「先生が自分のよいところを認めてくれている」と感じている割合も増えていることが分かります。

先生方のあたたかな声かけや振る舞いが、子どもたちの学校生活や、授業に対する前向きな姿勢につながっています。これからも子どもたちのよさや可能性を認め、フィードバックしていきましょう。



これからも子どもたちの取組を認め、子どものやる気を高めていくとともに、安心して活動できるような学級風土づくりを大切にしてください。

考えてみましょう!!

子どものやる気を高め、安心して活動できるような授業づくりを行うために…



子どもたちが安心・安全でお互いを認め合える授業を行いたいのですが…

次のような視点で、あなたの取組を振り返り、行動目標を立ててみましょう。

授業づくりについて

- ☐ 単元や本時のねらいを明確にして授業を行っています。
- ☐ 児童・生徒が自分の意見や考えを発信できる場面を設定しています。
- ☐ 教員の説明の時間を少なくし、児童・生徒が課題を考える時間を確保しています。

児童・生徒理解について

- ☐ 児童・生徒の言葉を、ていねいに受け止める姿勢で聴いています。
- ☐ 肯定的な言葉を多く使うようにしています。
- ☐ 児童・生徒がとった行動の背景や気持ちを理解しようとしています。

集団づくりについて

- ☐ 一人ひとりのちがいを認める機会やあたたかい雰囲気づくりを心がけています。
- ☐ 児童・生徒同士の協力により達成する活動を取り入れています。

<参考>神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課
子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント(R7.4月改訂)



私はまず「

」からやってみます!!

日々、立てた目標を振り返り、本資料 P2・3のチェック項目を確認していきましょう。



POINT!!

教員が、児童・生徒のよさや可能性を積極的に認めるとともに、子どもたちが互いを認め合える授業づくりや学級づくりに取り組んでいくことが重要です。

2 自分の考えを文章等で表現する力の向上



◆「教科に関する調査」の記述問題に着目すると…

	問題 番号	出題の趣旨	小学校		中学校		あなたの学校	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
国語	2 三	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	60.0	5.6				
	4 二	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。			31.6	17.9		
算数 数学	1(2)	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。	30.0	1.2				
	8(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。			40.3	32.0		
理科	3(4)	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる。	30.7	13.4				
	2(1)	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。			16.4	1.4		

自分の考えを文章等で表現する問題の正答率は、他の問題と比較して低い傾向にあります。また、選択式や短答式に比べ、記述式の問題の無回答率は特に中学校で高い傾向にあります。改善を図るには、どうすればよいでしょうか。



そんな時には、国の報告書に示されている解答類型と反応率に着目して分析をするとよいですよ。解答類型の反応率を見ることで、児童・生徒がどこでつまづいているのかを把握する一助とすることができます。

【小学校 教科調査問題(国語 2三)より】 【R7小国問題】
(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

- ① 【ちらし】の——部を書き直し、詳しくしている。
- ② 【調べたこと】のうち、以下のことから言葉や文を取り上げて書いている。
 - a <本を読んで分かったこと>
 - b <使ってみて分かったこと>
- ③ 60字以上、100字以内で書いている。



	解答類型	反応率
1	条件①、②a、bの両方、③、全て○【正答】	61.4
2	条件①、②a、bの両方○、条件③は×	0.5
3	条件①と条件②のaは○、bは× ※条件③は不問	8.7
4	条件①と条件②のbは○、aは× ※条件③は不問	12.7
5	条件①は○、条件②a、bともに×	7.8
99	上記以外の解答	3.9
0	無回答	4.9

解答類型4の反応率が他と比較すると高くなっています。【ちらし】の一部を書き直して詳しくすることはできていますが、【調べたこと】のうち〈使ってみて分かったこと〉に書いてある効果などを優先的に記述し、〈本を読んで分かったこと〉から言葉や文を取り上げることができていません。目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられます。

国立教育政策研究所が出している各教科の「報告書」には、授業アイデア例も豊富に掲載されています。今年度の問題や報告書、授業アイデア例を以下にまとめたので、参考してみてください。

お役立ちリンク集はこちら



授業改善のヒント!

解答類型に着目して分析し、子どもたちがどこでつまづいているかが分かったら、「報告書」の「授業アイデア例」を参考に、様々な方指導法を身に付けましょう。



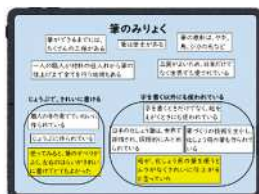
筆の魅力を書き出してみただけど、どのよう
に文章にしたらいいのかわからないな。

伝えたいことを明確にする過程でつまづいているのだな。

書く内容のまとまりを明確にして分類するとよいですね。似ている情報をまとめて整理してみましょう。



調べた情報をまとまり
ごとに整理すると、分
かりやすくなったな。
丸で囲んだ二つに絞
って書いてみよう!



書く「目的」や「相手」を再確認することはもちろんですが、情報の整理の仕方を指導することも重要です。他にも書くことを選ぶ過程で、伝えたいことや相手を意識して、優先順位をつけて選んだり、文章の組み立て（構成）を考えさせたりすることも大切です。

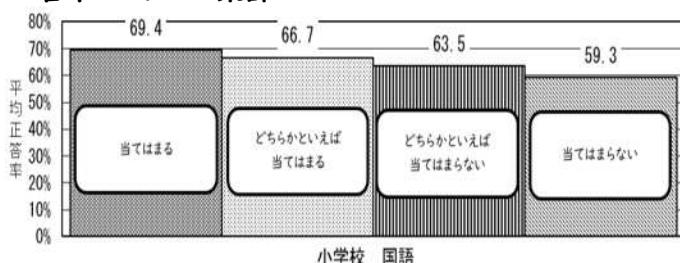
【R7小国】
授業アイデア例



◆自分の考えを表現することに着目すると…

<出典>「令和7年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語」P45、46

児童・生徒質問調査(13)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」と小・中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

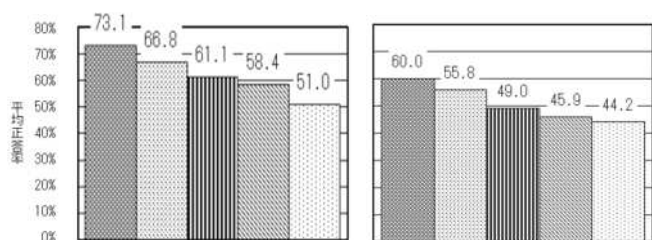


➡(13)の質問に対して、肯定的に回答した児童ほど、国語の平均正答率が高い傾向が見られます。

※中学校の国語、小・中学校の算数・数学、理科の調査においても、同様の傾向が見られました。

児童・生徒質問調査(31)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」と小・中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

■1.発表していた ■2.どちらかといえば、発表していた ■3.どちらかといえば、発表していなかった ■4.発表していなかった ■5.考えを発表する機会はなかった



➡(31)の質問に対して、肯定的に回答した児童・生徒ほど、国語の平均正答率が高い傾向が見られます。

※小・中学校の算数・数学、理科の調査においても、同様の傾向が見られました。

「自分の考えを表現する力」を向上させるためにも、他者との交流は有効です。さらに、子どもたちが自分の考えを的確に伝えるための工夫を意識できるようにすることも効果的です。その際、先生方の指示の仕方や声かけが鍵となってきます。



授業改善のヒント!

交流する際

何のために交流するのか(交流の目的)

何をフィードバックするのか(交流の内容)

交流といっても、互いの考えを述べあって共有したり、困っていることに対して相談したり、よりよくしていくためにアドバイスをもらったりと様々です。意図をもって交流の場を設定し、子どもたちと目的を共有した上で活動を進めることが大切です。

POINT!!

自分の考えを文章等で表現するには、材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。そして、教員は、児童・生徒がその過程のどこでつまづいているかを把握することが大切です。その上で、他者と交流する活動を、意図的・計画的に取り入れた授業を行うことが重要です。

3 授業改善の推進

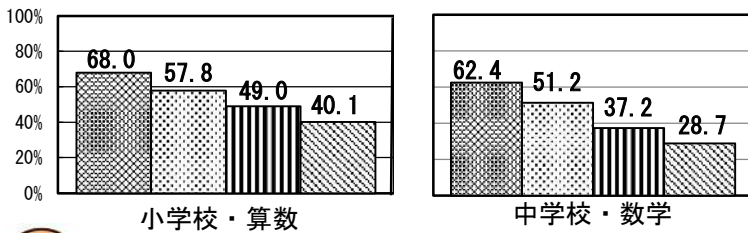


◆児童・生徒質問調査の「主体的・対話的で深い学び」に関わる各問いに着目すると…

質問 番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(32)	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	81.1	79.9			
(35)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	85.1	84.5			

児童・生徒質問調査(32)と小・中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない



➡課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると実感している児童・生徒ほど、算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られます。
※小・中学校の国語、理科の調査でも同様の傾向が見られました。



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めて、児童・生徒が自分から進んで学習に取り組んでいると実感できるようにすることが大切です。

小中連携の視点で分析すると、児童・生徒質問調査(32)では、R7年度の中3の数値(79.9)は、R4年度の小6の数値(78.8)よりも高くなっていることが分かりました。小学校段階で積み重ねてきたことを、中学校でも引き継ぎ、アップデートしていく視点をもって授業改善がなされていることが読み取れます。



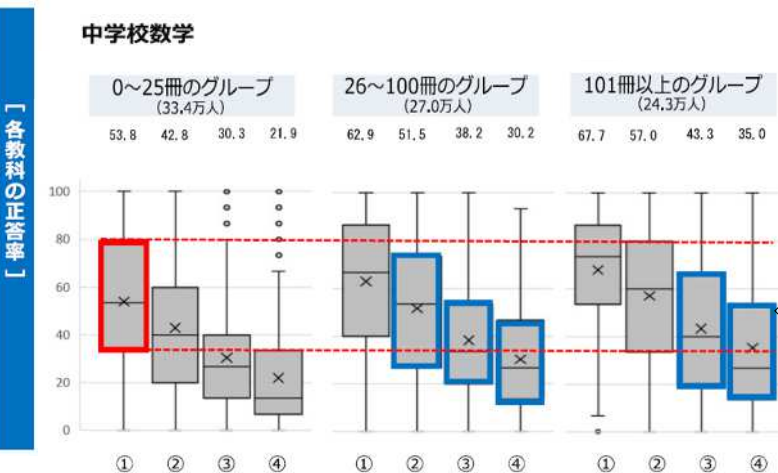
◆家庭の社会的経済的背景(※SES)と主体的・対話的で深い学びの関係に着目すると…

※SES: Socio-Economic Status

[家にある本の冊数] × [課題の解決に向けて自分から取り組んだ] × [各教科の正答率]



SESが低い児童・生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られますが、「SES」×「主体的・対話的で深い学び」×「正答率」で三重クロス集計してみると、左下のような箱ひげ図になります。



例えば中学校数学では、低SESグループ(本が 0~25冊)で主体的・対話的で深い学びの質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ(本が 26~100冊)で「②」「③」「④」と回答した生徒及び高SESグループ(本が 101冊以上)で「③」「④」と回答した生徒の箱より上の位置(正答率が高い位置)にあります。



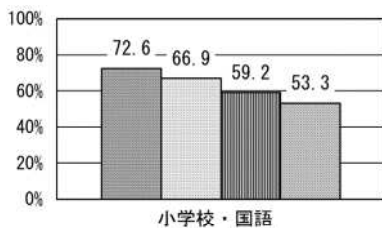
国から示された上記の結果からもわかるように、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善によって、SESの高低に関わらず、児童・生徒の学力は向上するのです。



◆ICTの利活用における学習効果に着目すると…

児童・生徒質問調査(29-4)「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができるといいますか」と小・中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない



※中学校の国語、小・中学校の算数・数学及び理科の調査でも同様の傾向が見られました。

➡ICT機器を利活用する自信がある児童・生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。

ICTの効果的な利活用が、学びの一層の充実につながっていますね。



ここに注目!!

文部科学省の特設ウェブサイトでは、ICT関連の情報や事例が掲載されており、どれも定期的に更新されています。県内の学校の取組も多く紹介されています。



「stuDX style」

一人一台端末の更なる利活用促進に向けた端末の活用事例の紹介



「リーディング DX スクール」

生成 AI パイロット校の取組をはじめとした指定校の実践紹介

←生成AIの活用事例(平塚市立金目中学校)



←リーディング DX 実践事例
(座間市立中原小学校)
(座間市立西中学校)



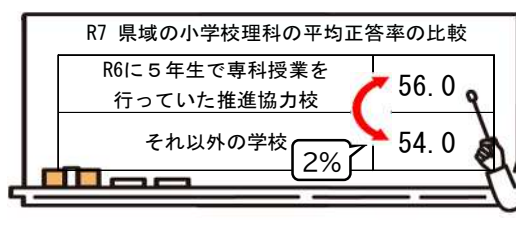
「情報モラル教育ポータルサイト」

情報の正しく安全な利用に向けた教材・研修動画の紹介



◆「小学校教科担任制」がもたらす効果に着目すると…

県教育委員会では、県域に推進協力校を指定し、「小学校教科担任制」を推進しています。「小学校教科担任制」の推進により、学校として組織的な指導力と対応力の向上による「魅力ある学校づくり」を目指しています。



令和7年度の小学校理科の調査結果において、令和6年度に理科の専科教員が授業を行った推進協力校の平均正答率は、それ以外の県域の小学校の平均正答率よりも2%上回っていました。

ここに注目!!

県教育委員会では、小学校教科担任制リーフレットを作成しています。

推進協力校が実施したアンケート結果や取組事例の紹介、授業交換における割り振りや時間割設定の具体例とともに、これまで推進協力校からよく聞かれた質問とその対応方法をQ&A方式で掲載しています。



POINT!!

各学校は、日々の教育活動の一層の充実を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に引き続き取り組んでいくことが重要です。

4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進

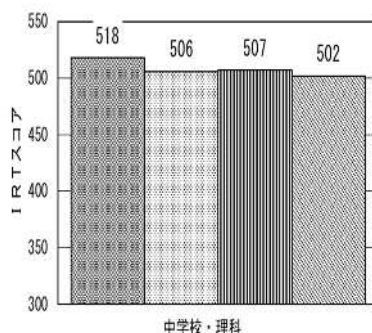
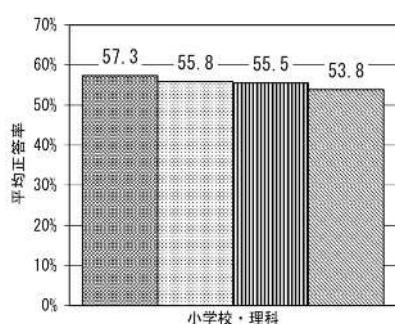


◆児童・生徒の家庭での学習状況に係る各問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校
児童・生徒(16)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	81.4	77.9	
学校(81)	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童・生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。	82.4	76.8	

学校質問調査(81)と小・中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない



⇒家庭学習について、児童・生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている学校ほど、理科の平均正答率が高い傾向が見られます。

※小・中学校の国語・算数・数学の調査でも同様の傾向が見られました。



学校で学んだことを、まずは家庭での学習につなげられるようにしたいのですが…。

学習を定着させるには、インプットするだけではなく、アウトプットすることが大切です。家庭でも、子どもたちが学校での学習を振り返ったり、発展的な学びにつなげたりするような働きかけができるといいですね。本校では、学校の学習を家族に説明する取組を行っています。はじめは、話す内容について話型を提示すると、子どもたちは取り組みやすくなりま



子どもたちの説明する力もつきそうですね。まずは、週に1回継続的に取り組んでみたいと思います。



この学習方法は、お家の方の協力も欠かせません。学級だより等で意義や効果を紹介し、家庭にも協力を得られるようにしています。



なるほど。家庭だけでなく、地域とも連携して、子どもたちの豊かな学びにつなげられるように、今度、学校運営協議会でも話題にしてみます。

机に向かう学びだけではなく、子どもたちが興味・関心を持ったことに没頭できる時間や環境を学校、家庭、地域で作っていきたいですね。そのために、学校運営協議会で熟議し、具体的な取組を地域と共に進めていきたいと思っています。地域と共に作る学校にすることで、地域に関心を持ち、地域を大切に人になってくれると嬉しいですね。



◆児童・生徒質問調査の地域や社会との関わりに係る各問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校	接続学校
(26)	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。	38.6 ↕	28.8 ↕		
(27)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	82.6	73.7		



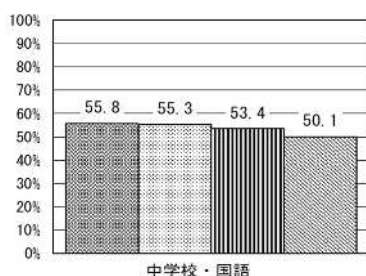
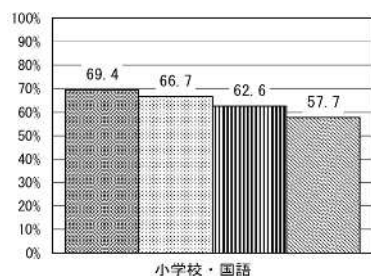
「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と思っている子どもたちはたくさんいるんですね。

そうですね。しかしながら、実際に地域の大人と関わる経験や機会は、小学校は4割弱、中学校は3割弱となっています。どうしたら、子どもたちの思いと行動をつなげることができるでしょうか。



児童・生徒質問調査(27)と小・中学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない



➡地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童・生徒ほど、国語の平均正答率が高い傾向が見られます。

※小・中学校の算数・数学、理科の調査でも同様の傾向が見られました。

考えてみましょう!!



学校での学びと、家庭や地域での学びをつなげていくために、どんなことができそうですか？

子どもたちへの働きかけや、家庭への働きかけ、子どもたちと地域をつなげていくような取組など、具体的に書き出してみましょう。

○
○



ここに注目!!

Q:「地域学校協働活動」ってよく聞くけど、なんだろう？

A:学校と地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに地域づくりを目指す活動です。

この仕組みを活用して教育活動を考えたり、総合的な学習の時間や生活科などの授業を組み立てたりすることで、子どもたちの学びが地域へとつながっていくことが期待されます。

県教育委員会では、その取組を進めたい地域の方や学校のためにハンドブックを作成しました。

取組事例も多数掲載しています。ぜひご覧ください。

地域学校協働ボランティアハンドブック
『つなごう!つなごう!地域と学校』



POINT!!

各学校は、地域の人材や教育資源を学校教育の中で積極的に活用することが大切です。そして、地域や家庭と連携しながら、児童・生徒が地域や社会に関わろうとする意識を育む教育課程の編成や、単元計画の作成を行っていくことが重要です。

